

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自主」「誠実」「創造」の校訓を旨とし、これからの社会に貢献できる深い教養と豊かな人間性を備え、主体的に物事に挑戦する姿勢を持ち続ける知・徳・体のバランスの取れた人間力のある人材を育成する。		
【生徒に育みたい力】	・志と夢を持ち、将来の自分を想像する力 ・努力を継続し、挑戦し続ける意欲と行動力	・社会や自身の課題に真摯に向き合い、主体性を持って考える力 ・人権を尊重し、多様性を理解して繋がる力

2 中期的目標

1	生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成
	(1) 知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力と主体性・多様性・協働性を含んだ「確かな学力」の定着をめざす。 ア 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を促進する。 [以下、学校教育自己診断を自己診断と表記する] ※自己診断（生徒）「授業のわかりやすさ」において、令和8年度まで70%以上の肯定率の維持。(R3:75%, R4:70%, R5:73%) ※自己診断（教職員）「主体的・対話的な授業実施に取り組んでいる」において、令和8年度まで85%以上を維持。(R3:76%, R4:94%, R5:86%) イ ・1人1台端末を活用して個別最適化された学びを実践する。 ・教育活動全般で生徒のICT活用能力を高める取組みを推進するとともに、電子黒板機能付プロジェクター等のICT機器活用授業を促進する。 ※ 授業での1人1台端末やICT機器等の活用指導力を上昇させる。(R3:86%, R4:88%, R5:85%) ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルでの英語4技能習得をめざす。 ※ 英語コースにおける当該科目授業アンケートの授業満足度の上昇をめざす。(R3:3.1, R4:3.0, R5:3.0) エ 津田高版の探究活動（探究の時間）を充実する。 (2) 校内外での学習習慣の定着をめざす。 ア アプリ利用の放課後学習を実施し、知識・技能の一層の定着を図る。 ※ 2年生での自主学習の平均時間を、令和8年度までに1時間以上とする。(R3:0.40H, R4:0.48H, R5:0.40H) イ 各種検定試験の受験を促進し、資格取得における学習への動機づけを図るとともに将来の進路に生かす。 ※ 漢字・数学・情報・英語の資格検定の申込を増加させ、令和8年度までに100人とする。(R5:71人) (3) キャリア教育の充実と希望の進路実現のための支援を充実する。 ア 自分の希望する進路実現に取り組めるよう、将来に向けてのキャリア展望を促進する。 ※ 自己診断（生徒）の進路指導に関する項目において、令和8年度までに90%以上の肯定率の維持をめざす。(R3:84%, R4:87%, R5:89%) ※ 自己診断（3年生徒）「自分の希望した進路に満足」において、令和8年度肯定率90%をめざす。(新規) イ 最新の情報収集に基づく進路種別の生徒・保護者向け説明会を実施する。
2	力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成
	(1) 生徒理解に基づく指導の促進と安全・安心な学校生活を支援する体制を確立する。 ア 生徒理解の指導により、生徒の自律性と自己肯定感の向上を図る。 ※ 年間遅刻者数を令和8年度までに800人以下にする。(R3:853人, R4:1020人, R5:895人) イ 悩みや不安のある生徒が安心して学校生活が送れるよう、スクールカウンセラーなどの専門家や関係機関と連携して教育相談支援体制を充実する。 ※ 自己診断（生徒）の教育相談に関する項目において、令和8年度まで肯定率85%以上を維持する。(R3:84%, R4:84%, R5:86%) ウ 学校のルールや授業規律の徹底を図り、規律ある安全・安心な教育環境を確保する。 ※ 自己診断（生徒）「学校のルールを守ろうとしている」において、令和8年度まで95%程度を維持。(R3:97%, R4:95%, R5:94%) (2) 伝統ある学校行事（生徒会活動）や活発な部活動により主体性・協調性を育成する。 ア 生徒主体で企画・運営する学校行事を継続して促進する。 イ 部活動運営の主体性を育むためCM（キャプテン・マネージャー）会議の充実を図る。 ※ 1年生の部活動加入率を令和8年度に60%にする。(R3:53%, R4:49%, R5:50%) ※ 自己診断（生徒）の「行事や部活動」に関する肯定率を、令和8年度に80%にする。(R3:76%, R4:76%, R5:76%) ウ 人権を尊重する教育を推進する。 (3) コミュニケーション能力の向上を図り、他者を尊重する心を育成する。 ア 「あいさつが飛び交う津田高」の伝統を継承し、あいさつ運動を促進する。 ※ 自己診断（生徒）「あいさつをするように心がけている」において、令和8年度まで肯定率90%以上を維持する。(R3:92%, R4:89%, R5:91%) イ 短期海外研修（希望者）及び海外の学校とのオンライン交流を実施し、国際感覚を育成する。
3	学校力、教員力の向上
	(1) 津田高の魅力発信の強化と地域連携の促進 ア 学校説明会の開催と、入学者出身校を核とした中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」をアピールする。 イ 地域コミュニティの行事や近隣企業のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」となる。 ウ WebページやSNSなど多様な情報発信ツールを活用した広報活動を強化する。 ※ 公式のブログ・SNSの内、学校Webのブログ「津田校ニュース」の更新を令和8年度に130回にする。(R3:15回, R4:9回, R5:98回) (2) 働き方改革の取組み ア 「校務運営の効率化に向けて」内の10項目に沿って、業務の見直し・効率化を図る。 ※ 教職員ストレスチェックの総合健康リスクを令和8年度に110以下にする。(R3:109, R4:119, R5:123) (3) 創立40周年に向けた取組み ア 令和7年度に創立40周年を迎えるにあたり、取組みを進めていく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
【学校生活】 ・生徒「誰に対してもあいさつする」が肯定94%[昨年度91%]で向上した。社会におけるコミュニケーションの始まりに大切な力が身についている。 ・生徒「学校へ行くのが楽しい」は84%[76%、一昨年度71%]と向上が続いている。保護者も78%[72%]で向上した。生徒が楽しく過ごせるように努めたい。 【学習指導】 ・生徒「授業はわかりやすい」は86%[73%]となり大きく向上した。昨年度末、固定プロジェクターの台数を約2倍にし、各所で1人1台端末と併用して運用できる授業が可能になった。生徒「学校は1人1台端末を効果的に活用」が92%と高評価である。今年度、DXハイスクールで整備したものも含め効果的に活用したい。 【進路指導】 ・進路指導項目の肯定は、生徒94%[88%]、保護者85%[82%]となった。今年度、3年生の新規「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」は95%となった。今後とも、一人ひとりが希望する進路の実現に向けて、きめ細やかな指導を続けたい。 【教育相談・いじめ対応】 ・教育相談・いじめ対応の項目の肯定は、生徒90%[88%]、教職員93%[77%]であった。教職員による相談・対応とともに、府配当に加えて学校独自のスクールカウンセラーの配置を行っている。今後とも寄り添う取組みを進めていきたい。	第1回（5/24） ・新しいことにも挑戦し、さまざまな取り組みをされている。私学無償化が広がっていく時代に、枚方津田の特色を中学生や外部にしっかりと情報発信し、知名度を上げていくことが重要である。→学校Webのブログは、さらに頻度を上げて更新している。公式SNSや各部活動のSNSも用いて、日々の生徒の様子を伝えている。 ・「あいさつができる津田高」とあるが、さらに推し進めてほしい。社会人においてとても重要な力であると考えている。 第2回（10/18） ・大学でもスクールカウンセラーの常駐など、体制の整備が重要になっているが、生徒の気質や傾向の変化に合わせた指導・支援、予算措置は重要である。 ・夜遅くまでスマホ操作やゲームをしている生徒がいるのではと危惧する。 第3回（2/7） ・ストレスチェックの総合健康リスクが123→91と大幅に向上して望ましい。それを実現できた理由などを知りたい。 ・遠隔授業の開始、DX、生徒のあいさつ力など、多様性の対応に積極的で、効果が上がっている。多様性への対応は、現在の教育でとても大切なことである。それらに取り組むと負担増加がある中でも、総合健康リスクが向上できている。 ・授業関連の評価は遠慮せず、もっと○→◎に変更していいのではと感じた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	(1) 知識・技能の習得、「確かな学力」の定着 ア 主体的、対話的で深い学びを実現する授業の促進	(1) ア・教職員間の授業見学や研修への参加により、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実践する。	(1) ア・年間2回の授業見学週間ですべての教員が授業を公開する。2回[2回] ・自己診断（生徒）「授業のわかりやすさ」の肯定率76% [73%] ・主体的・対話的な授業の実施率 89% [86%]	(1) ア・授業見学週間を2回設定し、相互に学ぶ良い機会となり、今後とも継続したい。(○) ・生徒「授業のわかりやすさ」86% ICTの効果的活用も進んだ。(◎) ・教員「主体的・対話的授業」90% 授業手法が定着してきた。(○)
	イ 1人1台端末を活用して個別最適な学びを実践、生徒のICT活用能力を高めるとともに、授業で活用 ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルでの英語4技能習得	イ・教科・科目の特性等を踏まえながら1人1台端末・ICT機器を効果的に活用した授業の実施。 ウ・英語専門コース及び英語授業一般において4技能伸長のための授業を実施。 ・4技能をバランスよく指導する。特にスピーキング力の養成に努める。	イ・授業での1人1台端末やICT機器等の活用指導力88%[85%] ウ・英語専門コースの授業アンケート「授業満足度」3.2[3.0] ・スピーキングコンテスト等1回実施[0回]	イ・教員「1人1台端末・ICT機器活用指導」90%となり、利活用及び指導力が向上した。(○) ウ・英語専門コースの授業満足度は3.6であり、大きく伸びた。授業で海外オンライン交流も実施。(◎) ・スピーキングコンテスト等として、英語の該当授業中に随時実施するとともに、他校との合同発表会に3名出場できた。(○)
	エ 津田高版探究活動の充実	エ・3年間を通じた継続性のある探究活動の構築	エ・生徒アンケート「探究学習」の肯定率88%以上[85%]	エ・生徒「探究学習」84%。探究コンテストを実施。入賞者の発表を全学年が見て、1・2年生も次年度のイメージを膨らませた。次年度の1年生はTT形式で実施する。(△)
	(2) 学習習慣の定着 ア 放課後学習の実施	(2) ア・アプリ利用の放課後学習を授業内容とリンクした課題及び各種検定の資格試験に対応した課題を混ぜて実施し、家庭学習（自主学習）を促進する。	(2) ア・2年生での自主学習の平均時間 0.5時間[0.4時間]	(2) ア・2年生自主学習0.33時間。放課後学習の手法の見直しを行うことも検討し、1年生も含めた学習時間を扱いたい。(△)
	イ 各種検定の受験促進	イ・英検、漢検、数検、情検等の対策指導を行い、意識を高め、受験を促進するとともに将来の進路に生かす。	イ・各種検定試験の申込者数80人[71人]	イ・検定申込79人となった。英検で準1級合格者が出るなど積極的に取り組む生徒はいるが、一層広がりをもたせたい。(○)
	(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現支援 ア 自分の希望する進路実現のため、将来に向けたキャリア教育の促進	(3) ア・津田高版「キャリアパスポート」を充実し、一人ひとりが希望する進路実現に向けた取組みを促進する。	(3) ア・自己診断（生徒）「進路指導」の肯定率の向上[88%] ・自己診断（3年生徒）「自分の希望した進路に満足」80%（新規）	(3) ア・生徒「進路指導」94%となり、大きく伸びた。(◎) ・3年生「自分の希望した進路に満足」95%となり、キャリア教育の成果が出た。(◎)
	イ 進路種別の生徒・保護者向け説明会の実施	イ・多様な進路情報に対応した、生徒・保護者向け説明会の実施	イ・進路に関する説明会を1年生2回、2年生3回、3年生5回以上行う。 [1年3回, 2年5回, 3年8回]	イ・1年3回、2年4回、3年10回実施し、各自の進路を幅広く考えることに貢献できた。(◎)

府立枚方津田高等学校

2 力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成	（１）生徒理解に基づく指導の促進と安全・安心な学校生活を支援 ア 生徒の自律性と自己肯定感の向上 イ 教育相談支援体制の充実 ウ 規律ある安全・安心な教育環境の確保 （２）学校行事や部活動による主体性・協調性の育成 ア 生徒主体で企画・運営する学校行事の促進 イ 部活動運営における主体性の育成と CM 会議の充実 ウ 人権を尊重する教育の推進 （３）コミュニケーション能力の向上と他者を尊重する心の育成 ア あいさつ運動の促進 イ 短期海外研修及び国際交流活動の実施	（１）ア・納得感のある指導により生徒の自律的な学校生活を確立する。 イ・教育相談・支援・人権に関する事例等も含めた研修を実施し、教職員の理解と力量を高める。 ウ・適切な授業規律指導により落ち着いた学習の場を維持する。 ・カウンセリングマインドのある指導により規範意識を醸成する。 （２）ア・生徒が主体となるように学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己肯定感を育む。 イ・キャプテン・マネージャー会議での情報共有とともに、生徒・教職員で連携しながら、１年生の入部率の向上を図る。 ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。 ウ・人権文化講演会を開催する。 ・テーマ別人権課題の各学年人権 HR を実施する。 （３）ア・「誰にでもあいさつできる津田高」のため、あいさつの重要性を説くとともに、生徒によるあいさつ運動を行なう。 イ・短期海外研修及び海外の学校とオンライン交流を実施する。	（１）ア・遅刻者数 850 件以下にする。[895 件] イ・教育相談・支援・人権に関する教職員研修を２回実施[２回] ・自己診断（生徒）での「教育相談」の肯定率 87%[85%] ウ・自己診断（生徒）の「学習環境」の肯定率 70%[66%] ・自己診断（生徒）の「規範意識」の肯定率 95%[94%] （２）ア・自己診断（生徒）の行事や部活動に関する肯定率 78%[76%] イ・１年生の入部率を前年度より上昇。[50%] ・部活動交流に参加する中学生 100 人[広報集約分 67 人] ウ・自己診断（生徒）「人権意識」の肯定率 90%以上[91%] （３）ア・自己診断（生徒）の「あいさつをしている」90%以上[91%] ・生徒による朝のあいさつ運動を年間 100 回以上[105 回] イ・短期海外研修の実施 1 回[１回] ・オンライン交流 2 回[２回] ・これらの活動のうち、集約が間に合うものについて、肯定 80%[新規]	（１）ア・遅刻者 1061 件で昨年度より増加。今後とも丁寧に指導したい。(△) イ・教育相談・人権に関する教職員研修を２回実施。(○) ・生徒「教育相談」90%、生徒に寄り添いながら積極的に取り組んだ。遠隔授業の制度設計も先進的に実施した。(◎) ウ・生徒「学習環境」76%、目標を上回ったが、今後とも望ましい学習環境の実現に努めたい。(◎) ・生徒「規範意識」96%、この状況が維持できるようにしたい。(○) （２）ア・生徒「行事・部活動」88%、生徒が活躍し、楽しみ、活発に取り組む状況が実現している。(◎) イ・１年生入部率 53%、目標達成だが、さらに上昇に努めたい。(○) ・部活動交流参加中学生 110 人(広報集約分)。他にも中学生との部活交流が頻回に行われている。(◎) ウ・生徒「人権意識」特にいじめへの取組みについての肯定 90%。人権講演会も好評であった。(○) （３）ア・生徒「誰に対してもあいさつする」94%で高い結果であった。(◎) ・生徒「あいさつ運動」105 回、毎朝、部活動単位で生徒があいさつに立ってくれている。(○) イ・セブ島の短期海外研修 1 回。(○) ・韓国の高校とのオンライン交流を授業の中で 2 回実施した。(○) ・海外研修では「スラム地域訪問は自分の常識を覆す発見ができた」、「自分の知識で英会話ができて自信がついた」など肯定 98% (◎)
3 学校力・教員力の向上	（１）津田高の魅力発信の強化と地域連携の促進 ア 学校説明会等の充実 イ 地域イベント等への参加 ウ 多様な情報発信ツールを活用した広報活動 （２）働き方改革の取り組み ア 業務の見直し・効率化を図る （３）創立 40 周年に向けた取り組み ア 令和 7 年度の創立 40 周年への取り組み	（１）ア・学校説明会の開催と、中学校訪問により生徒の活動状況を広報し「行きたい津田高」「伸ばす津田高」を広報する。 ・学校説明会時に中学生・保護者に授業を公開する。 イ・地域の行事や近隣の企業等のイベントへの参加、異なる校種間との生徒交流を実施する。 ウ・学校 Web の充実に取り組む。 ・Web、ブログ、SNS 等による情報発信。 （２）ア・「校務運営の効率化に向けて」における保護者への文書配付のデジタル化に取り組む。これにより、教職員の印刷・配付に係る時間の削減を図る。 （３）ア・令和 7 年度に迎える創立 40 周年への各種取り組みを進める。	（１）ア・中学校訪問 80 回以上 [92 回] ・学校説明会時の授業公開 1 回[１回] ・中学生向け広報紙の発行 6 回以上[９回] イ・地域の行事等への参加 4 回以上[6 回] ウ・学校 Web のブログ「枚方津田ニュース」更新 110 回[98 回] ・学校 Web の閲覧数の増加を図る。80000 回[79316 回] （２）ア・保護者への的確な情報伝達と対応を行う。自己診断（保護者）「情報提供」の肯定率 76%[73%] ・教職員ストレスチェックの総合健康リスクを 120 未満にする。[123] （３）ア・創立 40 周年企画の一環として、令和 6 年度中に制服のマイナーチェンジに関する契約を行う。	（１）ア・中学校訪問 107 回。2 月の希望調査時よりも 19%増の出願。(◎) ・学校説明会時の中学生向け授業公開 1 回実施。(○) ・広報誌発行 9 回 (○) イ・地域の行事等への部活動参加 4 回。他に支援学校生徒交流 2 回や中学生部活動交流を実施。(○) ウ・「枚方津田ニュース」166 回更新。他に修学旅行ブログ 31 回や公式 SNS、部活動の SNS も運用。(◎) ・Web の閲覧数 70981 回。次年度は Web デザインを一新したい。(△) （２）ア・保護者「情報提供」84%、紙配付もあるが、デジタル配付を積極的に実施した。(◎) ・教職員「総合健康リスク」91 となり大幅に向上した。(100 未満が低ストレス) (◎) （３）ア・新デザインを決定し、新 1 年生からの新制服を契約した。(○)